731　山岡久和氏

2006.11.24

淀川水系流域委員会様

宇治市菟道
山岡久和

水位操作WG意見書(案)に加えていただきたいことがあります。
はじめに、この淀川水系流域委員会を立ち上げられ、運営されてこられました河川管理者、学識経験者、それを支えている多くの市民等の崇高な思いが、いまさらながら日本の河川行政のあり方について燦然と輝いていることに感謝している一人であります。
しかしながら、この委員会のやり方が不満なのか、意見が不満なのか、委員が不満なのか明確に言わないで休止しょうとされています。
よくわからない理由を並べられていますが、見えてきたのは、国の方針に従わない淀川水系流域委員会（委員が、意見が、物言う住民）が不満であるということであります。
これは、社会の進歩を望まず、お上に従順な社会を維持するために民主主義の形骸化を図ろうとする改革を望まない人の考えるやり方と同じであります。次世代のためにも断じて許してはなりません。
淀川水系流域委員会はぶれることなく初心を貫徹されることを期待します。
さて、委員会の審議内容について意見を述べます。

平成 18 年 11 月 21 日の水位操作WG審議の中で琵琶湖がダムであるのかどうか審議されていましたが、一つの例があります。
「淀川流域を対象とした流域予測シュミレーションシステムの開発」というテーマのパネルの中で・・・また、この流域に存在する主要なダムは、琵琶湖流域の瀬田川洗堰、宇治川流域の天ヶ瀬ダム、木津川流域の比奈知ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、高山ダム、布目ダム、桂川流域の日吉ダムの８つであり、利水や治水に利用されている。といわれています。（このパネルは、京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻　平田智行、菅野浩樹、　京都大学防災研究所社会防災研究部門　佐山敬洋、立川康人、寶　馨）
琵琶湖はダムでないのかもしれませんが、瀬田川洗堰はダムであります。もっとも河川法で言うダムの定義からは、はずれています。（直高　１５m以上）
しかし、琵琶湖をダム化して運用しているのは現実ではありませんでしょうか。
つぎに、水位操作の試行およびその評価で、①琵琶湖水位　②淀川水位(淀川大堰、枚方)とありますが、洗堰の操作を直接受けている天ヶ瀬ダムと宇治川の生態系についても、是非、意見を述べていただきたいと願うものであります。
その理由は、
①琵琶湖洗堰の水位操作が天ヶ瀬ダムと宇治川の流量に直接影響していること。

②普段は平水位時も出水時も琵琶湖洗堰の水位操作であります。宇治川洪水のための洗堰の全閉　操作か天ヶ瀬ダムの洪水調整を行うのは数年に一度程度の天ヶ瀬ダム上流域で洗堰下流までのエリアの主に大戸川出水時の 2～３日位でしかないこと。(天ヶ瀬ダム集水エリアで琵琶湖を除く。)

③天ケ瀬ダムの上流域で喜撰山揚水発電所が運転していること。

④琵琶湖の浸水被害の軽減のための、1,500m3/s 能力を目指しての宇治川改修工事が行われたことであります。その結果、宇治川の環境は大変に破壊されました。

琵琶湖洗堰の操作と天ヶ瀬ダムの操作が流入＝流出で操作がされているので、天ヶ瀬ダムの能力を上げれば琵琶湖の水位操作の幅ができ、琵琶湖の環境改善につながるのは理解できます。

しかし、ここでは景観と治水についてはあえて述べませんが、その結果、宇治川の生態系の破壊について計り知れないものがありますが、淀川水系流域委員会としてどのように把握されておられるのか理解できません。

平成 18 年 6 月 26 日に国土交通省近畿地方整備局　淀川河川事務所、琵琶湖河川事務所、淀川ダム統合管理事務所と淀川水系流域委員会に宇治市商工会議所、社団法人宇治市観光協会、宇治川漁業共同組合が要望書を出されました。

このことに応えて淀川河川事務所は、内容は別としても要望者に対して直ちに「生態系の研究会」らしきものを立ち上げようとされていますが、淀川水系流域委員会は何のコメントもありません。

私は、これらの団体がまとまり意見を出されるには相当の決意があったからであり、現実の問題として耐えに耐えてこのままではいけないとの想いから出されたものであり、大変に重みのあるものと思います。

まさに住民意見聴取WG検討会で言われているサイレントマジョリティーからの発信であります。

同じように平成１６年 12 月 24 日に委員会の審議を得て、自治体の長として宇治市長から出された意見も同じです。今のところ、どの様に反映されているのかあまり見えてこないですが、これらの意見をどのようにして反映していただけるのか期待しています。

平成 18 年 11 月 21 日の水位操作WG意見書目次(案)たたき台の５. 水位操作のあるべき姿についての考え方と問題点として、基本的な考え方として「自然が自然をつくるのを助ける、川が川をつくるのを助ける」といわれていますが、宇治川塔の島地区は、これ以上壊しようがないくらいに人工の工作物で固め、さらに 1,500m3/s を出来るように更に河川改修工事を行われようとしています。

主に琵琶湖の後期放流をするために宇治川を放水路にしようとされています。

今、宇治川は、琵琶湖からの原因不明の泡が沢山流れています。

また、一旦天ヶ瀬ダムが放流すればその跡がくっきり残り、河床にはもろもろの沈殿物がたまっています。

多くの釣り人に聞いてもハエ、モロコ、ヒガイ、あゆ、うなぎ、などは激減して、形も小さくなったと言い、鯉やブラックバス、ブルーギル等が増えていると言われます。

私たちは、「ナカセコカワニナ」も大切かもしれませんが、昔のようにホタルや、しらすうなぎ等が育つ生態系全体の回復を願っています。

731　山岡久和氏

今日の宇治川に起きているような現象が、琵琶湖洗堰の水位操作が全ての原因とは思いませんが河川整備計画基礎案に対する意見書の答申の中で、自治体の長や一般住民の意見の反映を是非していただきたいと心から願うものです。